

海から拡がる街づくり —三苦地区—

我々の住む九州、日本は四方を海に囲まれている島国であるが、ハワイやアメリカと比較してビーチカルチャーというものがあまりにも貧しい。海岸は遊泳禁止や立入禁止とされ、近づいてはならない所がほとんどである。“危ない”“怖い”海はそういうところであるから近づいてはならないという事では、子供も、街も、自然環境を守る心も発展しないのだと思う。

マリンスポーツの代表的なサーフィンは、若者を中心に幅広い世代に普及している。ただのスポーツとしてでは無い。自然のパワーを直接受け、自然の厳しさ、偉大さを肌で感じ、自然を敬う手段としてである。それは生活や個々の哲学にも影響を与えるもので一つの文化である。そして子供達を教育する素晴らしい場でもある。

近年、海岸法の改定もあった。我々は海を利用する事を考え、海を利用したまちづくりを考えても良いのではないだろうか。そこで、海に近いという地域性を利用し、自然環境のポテンシャルを活かした街づくりを提案したいと思う。

計画地の福岡市東区三苦地区は市北東端部に位置し西側は玄界灘に面している。西鉄宮地岳線三苦駅から西側には、数件のスーパーマーケットや書店、飲食店、マンション、学校等が在る。近年、ベッドタウンとして発展し、急速に住居が増えている。

駅から西側へ500m程度の位置に三苦海岸がある。この海岸は南北に奈多漁港から狩野岬まで2kmに渡る弓状海岸の北端部にあたる。砂浜は美しく、沖には志賀島や水平線が見渡せ、夕刻には美しい夕日を眺める事が出来る。海岸の背後には防風林の松林が広がる。比較的波が高く流れも強い為、海水浴場として開放されてはいない。しかし冬季や北東の風が強い日はサーフィンに適した波が押し寄せるため、市内外から多くのサーファーが集まる。夏季にはバーベキューをする姿もよく見られる。百道浜海岸の様な人工海岸では無い自然海岸にしては駅から近くアクセスの良い海岸である。海の中道大橋の開通により、自動車でのアクセスも良い。パークウェイによって海の中道国営公園にも近い。

海岸の入口付近には、街区公園である三苦公園が在る。どこにでも在るような普通の公園である。

美しい海岸やロケーションを持つ地域といえるが、街は海という特性や、環境ポテンシャルを活かしきっているとは思えない。ここに、海を中心にビーチカルチャーが発展し市民が大らかに生活出来る夢のまちづくりを計画する。

まず、駅から海岸までの道路をメインストリートとし拡幅する。両側に植栽を連続して整備する。ワシントンパーム等、海を感じさせる植栽にする。カリフォルニア州のハンティントンシティのようなイメージである。道路沿いには、店舗が建ち並び街の賑わいを形成する。メインのストリートが海岸に突き当たったところに三苦公園がある。

この三苦公園の規模を現況より拡大する。ビーチフロントであるという特性を活かし、三苦ビーチパークとして整備する。現況の公園敷地に松林も含め、公園から海が眺望出来る様に整備する。過度な設備は必要無く、簡素なシャワーや駐車場を整備する。サーフィン等でのマリンスポーツ利用がマイナス要素として働かないようにし、街の活気に繋がるプラス要素となる様にする。利用する人間が清掃や施設の維持に積極的であるように、建設の段階からサーフィン等の団体を巻き込んでいかななくてはならな

い。行政が造ってあげるのではなく、みんなの施設をみんなで作るとい進め方をしなければならない。そしてビーチパークは、幅広い年代層が楽しむ事が出来るコミュニティの場を目標とする。ハードの整備より、建設完了時をスタートとし、そこに文化が経年的に形成される公園にしていきたい。そうして公園が街の貴重な財産となるだろう。

海岸では、サーフィンを中心としたマリンスポーツが盛んである。海岸そのものは人の手を余り入れてはいけないと思われる。極力自然のありのままを残せる様に努力する。海も波も自然からの恩恵と感じ子供達はそこで自然を敬う事を学ぶ。世代を越えた交流も期待出来、夕方には親子でサーフィンする姿も見受けられるだろう。また、ここは遊泳禁止であるが、夏季には海水浴をする姿が見られる。であれば、海水浴場とし、シーズンにはライフガードを配置し安全を確保したい。

松林と住宅地の間には市道があるが、この松林の中に遊歩道を整備し市民の散歩道とする。駅からのメインストリート、三苦公園、奈多海岸まで連続させる。

また、駅と湊塩浜線の間南北に設置されている幅3m程度のコンクリートの排水路を改良したい。これは大変無機質なもので、危険や嫌悪感こそ感じるものの、安らぎは全く感じられない。また生態系もほとんど存在し難いものとなっている。親水性はゼロに等しいにも関わらず存在感は非常に大きく、非常にもったいない気がする。小学校が近い事もあり子供にとって身近な場所の割には寂しいものである。これを、ボックスカルバートとして埋設し、上部に緑道を建設するか、あるいは浄化处理し親水性の高い水路として子供が遊べる安らぎあるものとしたい。また植栽豊かに整備しビオトープを形成させ、子供達が身近な生態系と触れ合えるものとする。

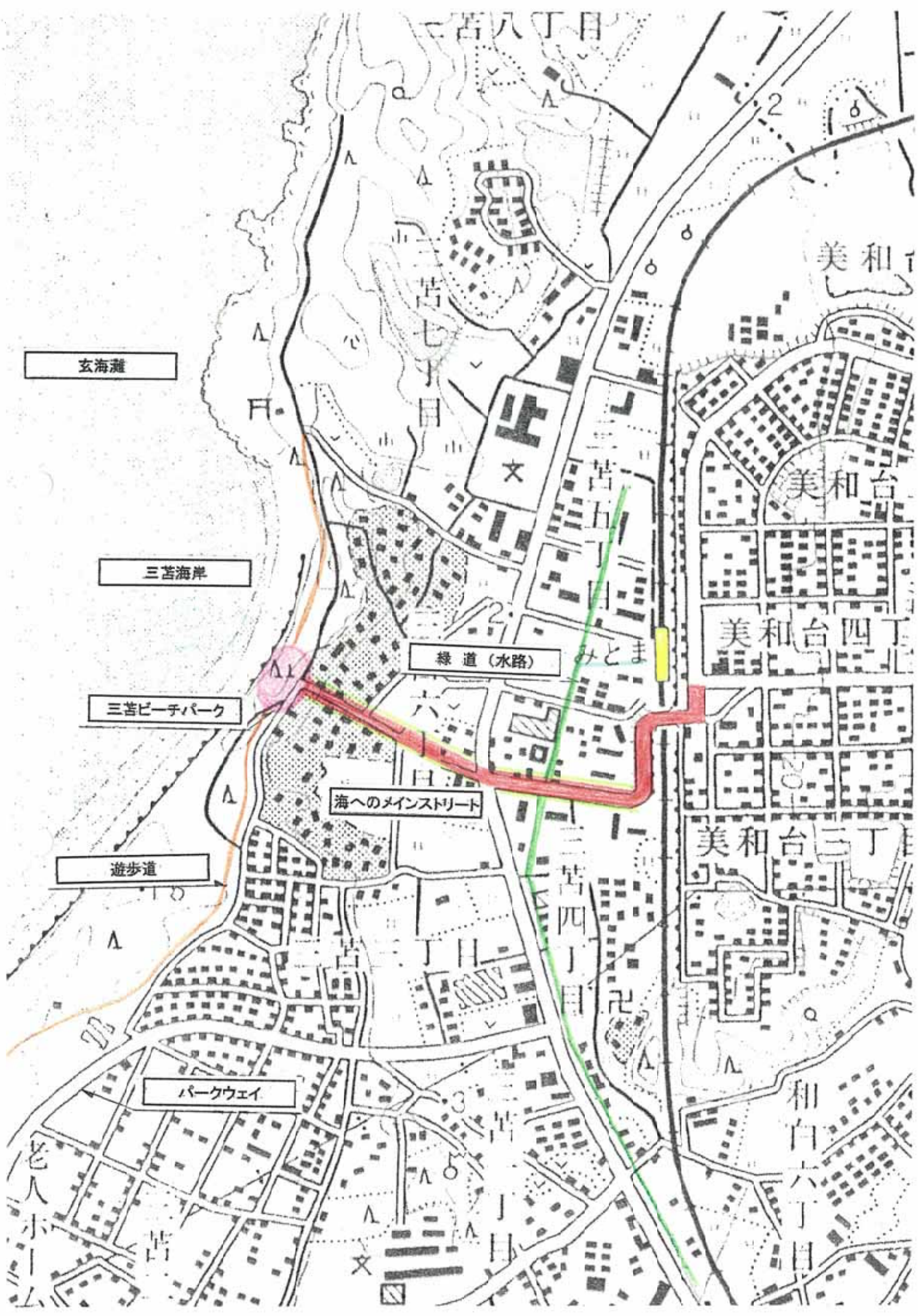
この緑道もメインストリートと交差することで海岸、海岸林とも連続し、緑のネットワークが形成される。この連続性を重要視したい。

街は、駅からメインストリート、緑豊かな緑道と交差し、三苦ビーチパーク、そして三苦海岸、玄界灘へと、海へ開けていく。連続した通りと公園と海岸では多くの人々が行き交いすれ違う。そこには人と人とのふれ合いがあり、人と自然とのふれ合いがある。マリンスポーツの利用により街には活気がみなぎって、そのビーチシティは、ひとつのリゾートになっているかもしれない。

この街は、まだ新しい街である。折角の素晴らしいロケーションや環境ポテンシャルを持って余す事無く最大限に活かしたい。海というひとつの個性を活かし、海から広がるステキな街にしよう。



参考イメージ Huntington city カリフォルニア州



玄海灘

三苦海岸

三苦ビーチパーク

遊歩道

パークウェイ

緑道(水路)

海へのメインストリート

美和

美和台

美和台四丁

美和台三丁

和自六丁目

止文

みとま

三苦四丁目

三苦八丁目

三苦七丁目

六丁目

止文

老人ホーム

三苦

止文

止文

止文

止文

止文

止文

止文

止文